

高等学校地理歴史科 日本史探究 学習指導案

指導者 原田 歩

日 時	令和7年6月26日(木) 第5限 13:25～14:15
場 所	第3研修室
学年・組	高等学校Ⅱ年 日本史探究A選択者(31人)
単 元	律令国家の形成『日本史探究』(実教出版)
目 標	<ol style="list-style-type: none">1. 国家の形成、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解する。(知識及び技能)2. 律令国家体制(中央集権国家体制)の成立など古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現できている。 (思考力、判断力、表現力等)3. ワークシートに自らの考えや他者の意見を記述し、単元最後のまとめの際に活用している。(学びに向かう力、人間性等)

指導計画(7時間)

第一次 律令制度	2時間
第二次 奈良時代の政治	3時間
第三次 天平文化	2時間(本時2/2)

授業について

平成30年に告示された高等学校学習指導要領における「日本史探究」の目標(2)では、「我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義[・・・]を、[・・・]概念などを活用して多面的・多角的に考察」する力を養うことが求められている。渡部(2021)は、この多角的・多面的について闇雲な事例研究ではなく、「概念や仮説の再考」を促し、総合的理論や類型的理論を築くことが出来るような指導の必要性を指摘している。

本授業では、単元前後で行った同じ質問に対する生徒の回答を対象にテキストマイニングし、回答の変化がなぜ生じたのか単元を踏まえて考察する。なお、本実践は抽出した単語を出現パターンの似通ったものを線で結ぶ共起ネットワークと呼ばれるテキストマイニングを用いる。

展開①では、奈良時代の特徴に関する理解の変化を概観し、中学校社会科(歴史的分野)と高等学校日本史探究における奈良時代の位置づけの違いを捉える。展開②では、生徒の回答上の位置づけが大きく変化した3つの1次的概念を取り上げ、単元の学習内容を踏まえてどのようにその概念の位置づけが変化したのか考察する。本授業によって学習者自ら校種を超えた教科・科目間のつながりを見いだしたり、深めたりする態度を育てることをねらいとしている。また、単元を通じた概念の変容を認識することにより、古代史やそれ以降の時代にも転用する理論の構築に向けて、自発的な「概念や仮説の再考」を促すことも期待している。

題 目 1次的概念に多角的な見方・考え方を働かせる日本史探究の授業実践
—単元前後にみられた生徒の記述の変化を資料として—

本時の目標

1. 共起ネットワークに生じた変化について単元の内容と関連付けて理解できる。(知)
2. 共起ネットワークの単語のつながりを分析し、どのような理解が中心をなしていたのか、その変化を考察できる。(思)
3. 単元で扱った内容を基に単語の位置づけの変化を考察し、その理由を表現できる。(思)

本時の評価規準（観点／方法）

1. 共起ネットワークに生じた変化について単元の内容と関連付けながら理解できている。
(知／ワークシート・定期試験)
2. 共起ネットワークの単語のつながりを分析し、どのような理解が中心をなしていたのか、その変化を考察できている。(知／ワークシート)
3. 単元で扱った内容を基に単語の位置づけの変化を考察し、その理由を表現できている。
(思／ワークシート)

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点(◆:評価)
【導入】	○共起ネットワークについて理解する。 ○奈良時代の理解がどのように変化したのか疑問をもつ。	○テキストマイニングの機能について理解し、そこから読み取ることが出来る無意識に理解していることに疑問をもたせる。
奈良時代の学習を通じて、奈良時代の理解がどのように変化したのだろうか。		
【展開①】 ○共起ネットワークを基に、奈良時代の特徴に関する理解の変化を考察する。	○鎮護国家や大仏など仏教を中心とした時代観に加え、国家体制についての理解が深まっていることを理解する。	○共起ネットワークの見方について支援を行う。 ◆共起ネットワークの単語のつながりを分析し、どのような理解が中心をなしていたのか考察できている。(思／ワークシート)
【展開②】 ○3つの単語の位置づけの変化について、単元で学んだことを基に考察する。 ・唐 ・仏教 ・律令国家体制における天皇	○文化だけではなく、班田収授法や貨幣、都市計画などの政治にも唐の影響があったことを関連付ける。 ○疫病や飢饉に対する仏教政策は奈良時代の一側面であり、奈良時代の政治史は土地政策と政争が中心であったことと関連付ける。 ○律令制度の枠組みの中で天皇中心の政治が行われていたことを理解する。	○文化史における仏教の位置づけ、奈良時代の政治が向き合った課題に目を向けるよう促す。 ○土地制度の変化を例にどのように天皇が政治に関わっていたのかに目を向けるよう促す。 ◆単元で扱った内容と単語の位置づけの変化がどのように関わっているか理解できている。 (知／ワークシート) ◆単元で扱った内容を基に単語の位置づけの変化を考察し、その理由を表現できている。 (思／ワークシート)
【まとめ】 ○本単元と次単元の足場架けを行う。	○本単元における理解の変容と平安時代の関わりを理解する。	
参考文献 ：樋口（2022）：動かして学ぶ!はじめてのテキストマイニング:フリー・ソフトウェアを用いた自由記述の計量テキスト分析 KHCoder オフィシャルブックⅡ、ナカニシヤ出版。 渡部（2021）：本質的な問いを生かした科学的探究学習のススメ『社会科教育』、明治図書出版。		

～古代における中央組織・国家組織はどのように成立したのだろうか～

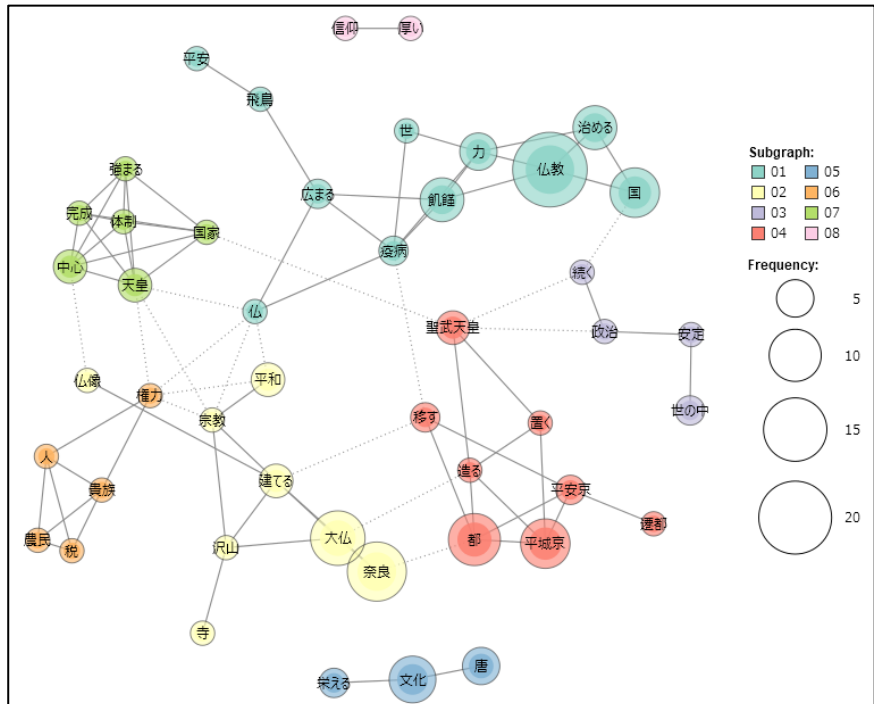
奈良時代の学習を通じて、奈良時代の理解がどのように変化したのだろうか。

共起ネットワークとは、、、

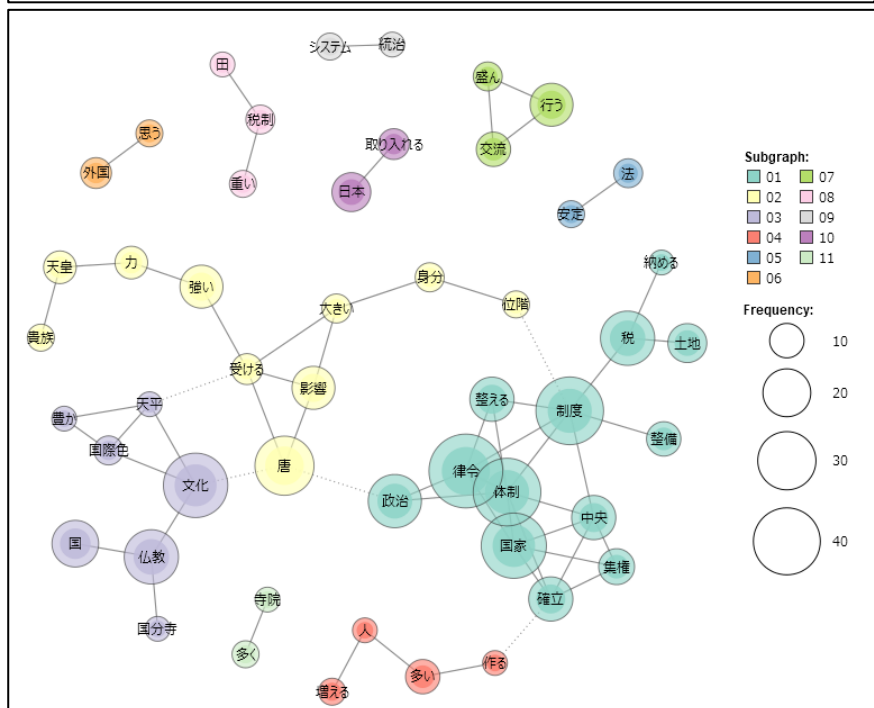
抽出した単語を用いて、出現パターンの似通ったものを線で結んだテキストマイニング。
出現回数の多い単語ほど大きく、線が濃いほどつながりが強く示される。(樋口, 2022)

○「奈良時代はどのような時代か」に関する答えの共起ネットワーク

1回目(前)



2回目(後)



Q: 上の資料から、奈良時代の特徴がどこにあると理解していた、したと考えられるだろうか。

学習の前後で分けて書きなさい。

前	後

Q: が に結びついているのはなぜか。

具体的に事例を挙げながら説明しなさい。

--

Q: の位置づけが から に変わっているのは、なぜか。

- ・視点1: 飛鳥時代と奈良時代では、仏教・寺院の位置付けはどのように変わったか。
- ・視点2: 奈良時代を通じて、奈良時代の政治が向き合っていたことは何か。

--

Q: から に変化したのはなぜだろうか。

--	--

実践上の留意点

1. 授業説明

平成 30 年に告示された高等学校学習指導要領における「日本史探究」の目標 (2) では、「我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義… (中略) …を、… (中略) …概念などを活用して多面的・多角的に考察」する力を養うことが求められている。渡部 (2021) は、この多角的・多面的について闇雲な事例研究ではなく、「概念や仮説の再考」を促し、総合的理論や類型的理論を築くことが出来るような指導の必要性を指摘している。

本授業では、単元前後で行った同じ質問に対する生徒の回答を対象にテキストマイニングし、回答の変化がなぜ生じたのか単元を踏まえて考察する。なお、本実践は抽出した単語を出現パターンの似通ったものを線で結ぶ共起ネットワークと呼ばれるテキストマイニングを用いる。共起ネットワークとは、一緒に使われている語を線で結んだネットワークである。一緒に使われることを「共起」といい、同じ話題の中で使われている語などを抽出することができる。分析にはフリー・ソフトウェアである「KH coder」を用いた。

生徒の既有知を把握する際や実践の成果を公表する場面で、テキストマイニングを使用している例はあるが、問いの作成においてテキストマイニングを活用している実践はほとんどみられない。樋口ら (2020) によれば、計量テキスト分析には次のような二つの特徴がある。一つ目は分析をする人自身が正確にデータを捉え、データを理解できるようになること、二つ目は、分析結果を自分以外の人に対して客観的に説明できるようになり、分析の信頼性が向上することである。

本実践では、授業者と生徒の記述を分析する人物が同一人物であるため、授業の意図や授業での印象が、生徒の記述を分析する際に思い込みや願望として反映される可能性がある。また、生徒も自身の理解や印象に基づいて記述を紐解く可能性がある。計量テキスト分析の上述のような特徴は、改めて生徒の思考を捉え直すうえで優位に働くと考え、計量テキスト分析による共起ネットワークを手法として選んだ。

展開①では、奈良時代の特徴に関する理解の変化を概観し、中学校社会科 (歴史的分野) と高等学校日本史探究における奈良時代の位置づけの違いを捉える。展開②では、生徒の回答上の位置づけが大きく変化した 3 つの 1 次的概念を取り上げ、単元の学習内容を踏まえてどのようにその概念の位置づけが変化したのか考察する。本授業によって学習者自ら校種を超えた教科・科目間のつながりを見いだしたり、深めたりする態度を育てることをねらいとしている。また、単元を通した概念の変容を認識するにより、古代史やそれ以降の時代にも転用する理論の構築に向けて、自発的な「概念や仮説の再考」を促すことも期待している。

本授業では、生徒の思考を深めるツールとして共起ネットワークが機能するという学習材としての機能を示すことができたと考えられる。

2. 研究協議

・テキストマイニングに関わる統計データの扱いについて

→本授業では、テキストマイニングによるデータそのものを批判的に捉えること、テキストマイニングそのものの理解を深めることに主眼を置いていないため、背景となる数値は省略して生徒に示したが、今後は情報科などと連携して情報等の取扱いについて触れることも想定できる。

・テキストマイニングの技術的な部分について

→本実践では、テキストマイニングに関わる概説書を参照しながらテキストマイニングを行っており、簡易な方法でも生徒が思考する材料を作成することは可能であると考えられる。

・単元の流れと本時の授業の関わりについて

→テキストマイニングに現れた単語の一部には、授業者が口にした単語が多くなっており、授業内容と生徒の思考への影響を勘案して分析する必要があった。単語として現れているからといって、生徒がその単語について深く理解しているとは必ずしもいえない。